

Eiche

Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-681 ワールドナーシングホーム内

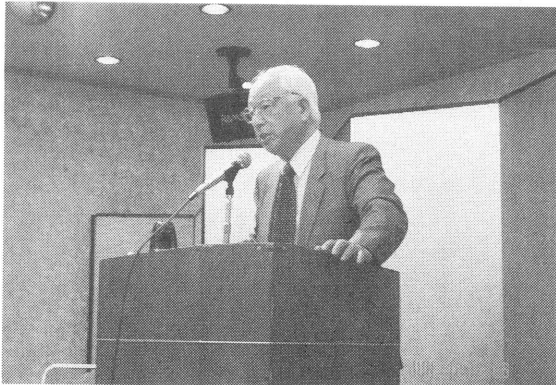
Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

2006年 年次総会開催

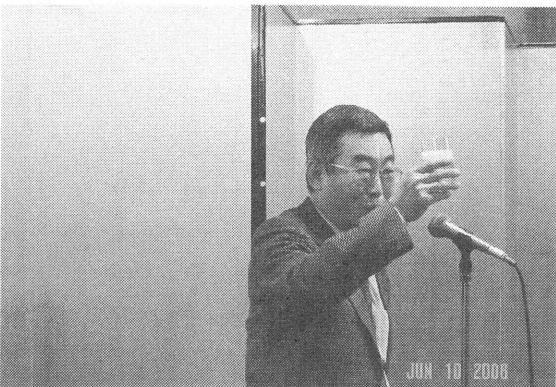
平成18年6月10日(土) 2:30~5:30 PM
於 西船フローラ 29名

今年の総会も昨年同様、西船フローラにて開催された。まず、西坂知晃事務局長の司会で、日独国歌を斉唱して開会。鈴木淑弘常任理事を議長に選出、恒例により国枝誠昭副会長が平成17年度事業報告、西坂事務局長が体調不良で欠席した下川はつ江会計担当に代わり決算報告を行い伊東惇子監事が監査報告を行った。続いて昨年行われた「日本におけるドイツ2005/6」の中で当協会が実施した「ドイツに親しむ3日間」に関して、橋口昭八常任理事より詳しい報告がなされた。更に、金谷誠一郎専務理事が平成18年事業計画及び予算(550,226円)を提案し承認された。その後、平尾浩三会長から次期役員候補として、尾田幸雄、小野浩、坂本宗秋、綿貫尚の各氏が理事として、西坂知晃事務局長が会計兼任として提案され満場一致で承認された。総会終了後、橋口常任理事が「東ドイツー今は昔」と題して記念講演を行った(詳細下記)。終了後、別室で宗宮好和副会長による乾杯で懇親会が行なわれ、新入会員の青柳義昭、海宝文雄、川本賀子、事務局の松崎寛記氏らが紹介されて、17:30に閉会。

(総会資料ご希望の方は事務局迄ご連絡下さい。)



講演する橋口常任理事



乾杯の音頭をとる宗宮副会長

東ドイツー今は昔

橋口昭八

(1) 今年で十七年

旅行・車・カラーテレビ：東ドイツの市民の夢はまず西への旅行、次にVWゴルフ、オペルカデットに乗り換えたい、三番目が茶の間にカラーテレビであった。ドイツ統一によってこれらの夢は瞬時に叶えられたが、当時の車事情について言えば、新車の供給は年間に二十万台、納期は十四年という信じ難い長さで、自然正規のルート以外に中古車があり、新車を上回る価格さえ払えば早期のマイカー入手は可能であった。一九八一年民生安定とホネツッカー書記長の訪日のお土産として日本車の大量注文があり、ベルリン地区に限定して供給された。日本車はベルリンの街に彩りを与えると同時に、すぐに中古車で倍近い価格で取引されるとか、ベルリン地区の外では石をぶつけられるとか、種々話題を提供した。統一後一年で六十万台の西独製中古車が売られた。一方テレビは八十年代なかば日本が納入したカラーブラウン管の製造ラインが稼動し、市民に行きわたり始めたが、まだまだ長納期、高価格(八千マルク)であった。

一新名所：旧ベルリンの中心は東ベルリンに取り込まれていたが、新しい首都中枢は東西の境界地区に出現、国会議事堂、首相府、十月オーブン予定の中央駅等が新名所として登場、東のポツダム広場、シャロロッテ通はカルチャー・ビジネス・ショッピングセンターとして整備されつつある。ブランドンブルク門わき、ヒットラーの地下壕あとにはホロコスト慰霊施設が出来た。ライプツヒ、ドレーズデンはもとより、シユヴェリン、ウエルニゲローデ、ワイマール等歴史・文化的に重要な地方都市も再生している。

概して皆ハッピー?：東地区の産業整備はEUの東方拡大の中で置き去りにされた感が強いが、統一については過半数が満足しているというアンケート結果がある。例外もあるが、当時の仕事で付合っていた連中は夫々に統一を享受しているようだ。

(2) ドイツ統一

一九八九年十月の建国四十周年記念パレードは三十周年記念に比べしなやかであった。夏のハンガリーの国境開放で始まったドラマは、この直後、ベルリンの壁崩壊、両ドイツの統一という劇的、幸運な展開を遂げたのである。「その時歴史は動いた」その瞬間は一九九〇年三月十八日東独総選挙二週間前コルン首相が対一の交換レートをコミットした瞬間であったろう。

(裏面に続く)

～今後の主な催物案内～

*チター演奏会

恒例の日本チター協会会長で当協会理事、内藤敏子先生によるチター演奏会です。皆様のご参加をお待ちしています。

日時：7月22日(土) 14:20～17:00

場所：「中国料理ニューハクチョウ」

千葉市中央区春日 2-9-15

クレール・マロニエビル1F

043-243-2581

(JR西千葉駅西口ロータリーの西友左側

大通りを海岸方向へ約100m歩き、
最初の信号右前方角)

会費：2,500円、非会員3,000円

— 会費納入のお願い —

平成18年度会費の納入をお願いします。

年会費：個人 3,000円

法人 10,000円

(同封の郵便振替用紙にて)

千葉県日独協会ドイツ視察旅行 — 橋口 昭八

千葉県日独協会は設立10周年を記念し、堂本県知事のデュッセルドルフ日本デー参加に焦点を合わせ、平尾会長以下21名が5月19日から26日までドイツを視察旅行した。日本デーは19日経済シンポジウム、20日市民祭の日程であったが、千葉県ブースでのお手伝いを予定していた市民祭がまさかの荒天で中止。しかし夜のエルヴィン市長主催県知事歓迎会に招かれ、閉会時には全員で千葉カラーの黄色地Tシャツを着て堂本知事、エルヴィン市長と共に写真に収まり、彼我の親善に一役買った。一行はまず現地到着19日夜にはデュッセルドルフ在住40年近くになる三丁目氏の日独交流史を聞き、21日からライン川のぼりを楽しみ、ハイデルベルクへ。その後、ロマンチック街道は、ヴェルツブルクからローテンブルク、フュッセン、更にはミュンヘンへとお定まりのコースとなったが、アルトハイデルベルク、16世紀の彫刻家リーメンシュナイダー、狂王ルードヴィッヒのノイシュヴァンシュタイン城、ホーフブロイハウス等、遅い春のドイツを満喫。また行く先々でビールと旬のシュパルゲル(ホワイト・アスパラガス)を堪能した。

(当協会常任理事)



総会参加者の皆さん



前列中央 堂本知事とエルヴィン市長

社会党・旧統一社会党有利の予想が覆り、コールの押すキリスト教民主同盟が勝利し、「十月三日を統一の日とする」との八月二十三日の東独人民議会における合意と八月三十一日に東ベルリンで両独政府代表により調印された『両独統一条約』、九月十二日モスクワにおける東西両独と米ソ英仏による24外相会議という統一に向かつての一連のプログラムが世界矚目のうちに一挙に進行した。

(3) 壁の思い出

「西ベルリンは東ドイツの真ん中にあり、その国境線は百六十四キロメートル、このうち四十五キロメートルが東西ベルリンの間を走っている。何の保安設備もなく、毎日五十万人が国境を出入りし、大規模な通貨の闇取引で東ドイツは出血死の危機に追い込まれた」

「一九六一年八月十三日零時ゴーサインが出され行動開始、人民軍、人民警察の機動部隊、各都市からの労働者戦闘部隊が決められた地点に出動、東独軍は駐留ソ連軍の支援を受け、NATO軍の介入に備えていた。数時間経たぬうちに西ベルリンの周りの共和国境はすっかり固められた」

「東独の領土内で遂行された行動にNATOは軍事行動を取らないと言う十分な根拠があった。米国は西ベルリンに関し、今までの地位が保たれること、西側三国のベルリン駐留を続けさせる事、西ベルリンと西ドイツの間の交通が保障される事の三つが守られれば動かないという確かな情報を得ていた」(E・ホネッカー『私の歩んだ道』より)

もし壁が構築されなかつたら世界はどうなっていたか。壁は西では悪の代名詞であった。しかし案外壁のおかげで第三次世界大戦が回避されたのかもしれない。